24 老人保健施設との「通院透析」地域連携クリニカルパスを導入して

諏訪赤十字病院 透析センター

一ノ瀬あゆみ 五十嵐美都子 立花直樹 笠原寛 小口寿夫

I はじめに

慢性透析患者の高齢化に伴い、合併症の併発、ADLの低下、自宅での介護困難、透析送迎困難などが増加している。急性期病院で退院可能な患者の受け入れ先としては、在宅または療養型病床のある病院への転院が考えられる。在宅での介護が困難な場合、居住地近くに転院先がないことが多い。当院では在宅での介護が困難な維持透析患者の受け入れ先の施設をMSW中心に検討した。その結果、近隣の老人保健施設(以下老健施設)に受け入れが可能になった。そこで当センターでは、透析患者の老健施設入所を機に、老健施設と当センター間における「通院透析」の地域連携クリニカルパス(以下連携パス)に取り組んだ。

Ⅱ経過

- H18 年5月 透析患者老健施設入所決定。 老健施設の職員、当院スタッフと 数回のミーティングを行った。
 - 6月 老健施設の職員を対象に、血液 透析療法について、また、具体的 な透析患者のケアや注意点などに ついて、老健施設に赴き、講演会、 勉強会を計2回行った。
 - 9月 老健施設との通院透析の連携パ スを作成
- 一ノ瀬 あゆみ 諏訪赤十字病院透析センター
- 〒392-8510 諏訪市湖岸通り 5-11-50 0266-52-6111

- 10 月 連携パス導入に向けて、老健 施設の職員、当院の退院コーディネーター、透析師長でミーティングを行った。
- 11 月~連携パスを使用中 (現在まで 5名)

Ⅲ連携パス作成にあたり工夫した点

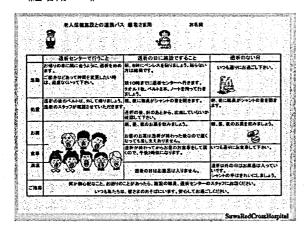
- 透析療法には終了といった期限がないため、 連携パスは一週間単位として、週ごとに 1 枚のパスを使用することにした
- 2、非透析日と透析日(通院日)とを色分けし、 容易に識別できるようにした
- 3、透析曜日や回数に合わせて数種類のパターンの連携パスを作成した
- 4、表現方法を「目標」「項目」「シャント音:良・悪」と平易で医療者以外にも抵抗 の少ないものにした
- 5、患者の連絡ノートに細かく書かれていた内容を連携パスの項目に取り入れた
- 6、緊急連絡先を明記した

Ⅳパスの実際

《スタッフ用パス》

MARA BLUZBORGATAL CYA. 773-OKRUGARTAL				E 人祭僧施設との道徳クリニカルバス (烈術·温敏)						
		A	聖(月)	月 日(火)	Я	日(水)	月 的(木)		日(金)	月 軽(土
		ヨモアロ 予定の指揮 治療ができる	対サドルカン 子供信の共和点がない シベルをが良井 血圧の発定	多道を守住を) シャン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		第章(水田田) 予報等の本出金が立 シベル管が出際 出行の発度	中央部所選称2 シャンナリが自身 会長の安全 (一)	をはいる 子女の気が 出名ができ る	を対象の共和的なな。 シャン・電が高等 自任の管理 (************************************	多数サリル (シャン・音が最 血圧の変変 (一
	先 無	口立大の車 (二酸に合う物 間にきづか 間にき対する 口点液外を 機等多層 ロが血ベルト を対して参考 する	口能は()) 口能がかか者 、長、裏、」 口ぐい人をも のがか、「外」 一十分を 口が可える。 口がを破りまする の質出血液温 (有・数) 「の配子人を の表出血液温 (有・数)	口味シャントを (虫薬) 口味シャントを (虫薬)	○選夫の単に 無に合う時間 に事務する ○血療浄化物 平分間 ○止血ベルト されして参考 する	日本区 / /) 日本区 / /) 日本区 / 日本区 /		に関に会う	〇点区(7) 「関シャンナ省 (真果) ロベルス形名 ロケル、ベルト、 イ・対象 ロバの基準入室 の内は直接版 有 裏 。 ロボシャンナ省 (真 果)	口根シャント (食器) 口をシャント (食器)
	在場	DA液体化 配质多量	口機 口模 口線名機	78 04 04 04 08 084	日本地界化記 参学器	DE DE	AR DS DE DE-	日本東海北 紀日中間	DESE DESE	PAR CIN CIN CIN CIN CIN CIN CIN CIN CIN CIN CIN CIN CIN
١	*	41.	O学を発展会	通常差4	ᇵ	CHERRE	選出達り	₩.	○命を後を主	油水道 9
	基之 東国		CHARLET SO	口被使(有 数) 口声或板目は 入港等		口管連門 MD 口道をおは人路 なし	〇芽生虫 (B) 〇条造板目は 入影可		□禁使性 動 □通振音は入降 なし	〇歩長(株) 〇井森林田 入場可
	20		○島谷ノートへ選挙 金に仮える李を紹 人		口盛者ノート に施設に伝え を事を記入	〇章章ノー選が 第个版える単位記 入	口集者ノーナに 必要者或を配入	ロ島を た は な な 人 も り な な り た り た り た り り り り り り り り り り り	口車を入一番所 第一届大多事を記 人	口島をノー 必要事項を 入
ı	177	* *	* *					* .	* *	* *

《患者用パス》



V連携パスの運用方法

患者用パス…老健施設入所決定後、患者または 家族に渡し説明する

スタッフ用パス…老健施設と当センターを患者 と共に往復する。一週間使用後は当センターで保 管する

VI 連携パスを使用しての感想

《老健施設》

1 通院透析患者が入所した当初から連携パスを使

用していたので、連携パスを使用することに対す る混乱や抵抗感はない

2 老健施設に看護師が少なく、透析患者へのケア に落ちがないか(不十分でないか)と不安はある が、連携パスに沿って行えばいいと思うので安心 できる

《透析センター》

- 1観察項や処置のもれが少なく使用しやすい
- 2 チェックボックスのサインのもれ、バリアンスの有無のチェックのもれがある
- 3 バリアンス分析がされていない

Ⅵ 現状と課題

老健施設に透析患者が入所した当初から、連携パスを使用したため、記録に対する抵抗はすくなかった。老健施設の職員にとって連携パスを使用することで、透析患者に特有な注意点やケアに対して、不十分ではないかと思う不安な気持ちは緩和された。連絡ノートに文章で記載していた長い記録をパスに取り入れることで、連絡ノートの記録が短くなった。パスのサインの記入もれがあること、バリアンス分析がされていないことなど、連携パスの運用面で見直しが必要な部分もある。

Ⅷ まとめ

当センターと老健施設とで通院透析患者の連携パスが運用できているのは、老健施設の職員の理解と協力によるところが大きいと思われる。老健施設の職員に理解が得られた理由の一つとして、透析患者の老健施設入所前、連携パスの運用前に相互の施設間での十分な話し合いの機会を設けることが出来たことや、老健施設に赴き血液透析療法についての説明を行ったことで、老健施設職員の透析にたいする不安を緩和し、相互施設間での良好なコミュニケーションが得られ、信頼関係を築けたことが大きく影響したと考える。

IX 参考文献

田城孝雄他:特集スムーズな連携を実現する 地域連携クリニカルパス 日本看護協会機関誌 Vol.58

2006